

編集後記

「何のために論文を書くのですか？」と今、若手医師に問われたら、私はユーモアも込めて、“趣味”なのでと答えると思う。医学論文が医療や医学の進歩に貢献するのは事実だが、私が論文を書かなくても患者さんの命に直接かかわることはない。書かなくても稼げるし、書いても稼ぎにならない。私にとっては、まさしく“趣味”である。しかし駆け出しの頃を振り返れば、専門医資格や学位の取得のために追い立てられ、強制と義務感があった。それでも、世界で誰も知らない事実（大袈裟だが）を知る喜びや、承認欲求を満たす達成感を味わえた。苦勞してようやく採択されたときの高揚感は、うまくもないのにゲームにハマる感覚に似ている。そのような気持ちを持てたのは、私が師事した先生方のお力だと思う。ご自身が執筆したほうが苦勞が少ないのに、私にテーマとヒントを与え、考えさせ、根気強くご指導くださった。アイデアはご自身の中にあるのに、いかにも私が考えたかのような気持ちにさせてくださった。そのおかげでこのような“趣味”を持てた。今、若手医師の論文投稿が減っている。私も同じように若手を導き、共通の“趣味”を持つ仲間を増やせると良いのだが。

（鈴木 博）